

名目と実質

統計データを見るとき、「名目」や「実質」といった言葉が使われることがありますが、「名目」と「実質」はどこが違うのでしょうか。

結論から言うと、「名目」とは額面どおりの金額で、普段私たちがスーパーなどで目にしていく金額そのものです。一方、「実質」とは、物価の変動の影響を取り除いたものです。

例えば2012年のお小遣いが1,000円、パンが1個100円だとします。パンは10個買えます。その1年後、2013年にお小遣いが1,400円にアップしました。でも、パンは1個200円に値上がりしました。

このとき、名目のお小遣い額とは、もらったお小遣いそのままの金額です。この例の場合は、2012年は『1,000円』、2013年は『1,400円』です。

一方、実質のお小遣い額は、

「名目値／当該年の物価（この例の場合はパン）×基準となる年の物価」
で求めます。

2012年を基準年とすると、

2012年は『1,000円（名目）／100円（当該年の物価）×100円（基準年の物価）＝1,000円（実質）』

2013年は『1,400円（名目）／200円（当該年の物価）×100円（基準年の物価）＝700円（実質）』

つまり、名目値で見ると、お小遣いは『1,000円』から『1,400円』になり、一見嬉しいように思いますが、実質値で見ると『1,000円』から『700円』になっている（10個買えたパンが、7個しか買えなくなる）ので、お小遣いが少なくなってしまうのです。

実際のデータを見てみましょう。

右の図は、1970年～2007年までの京都市の1世帯当たり1か月間の収入です。

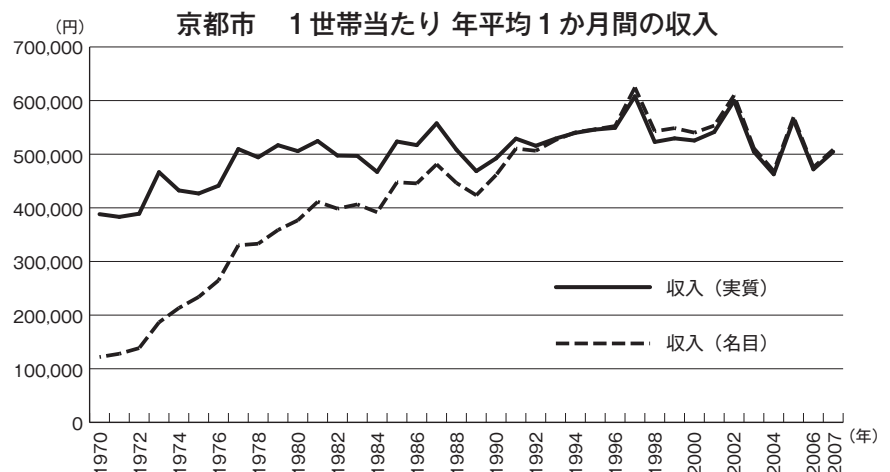
名目値は1970年：121,892円、2007年：508,579円となっており、約4.2倍にまで増えていますが、実質値（物価の基準年は2010年）で見ると、1970年：388,191円、2007年：504,543円であり、1.3倍です。

給与でもらえる金額は額面上かなり増えていますが、その分、物価も上昇しているため実際は1.3倍の増加となっているのです。

このように、実質値を用いることによって、名目値だけでは分からないことが分かります。

なお、実質値で収入が上昇する要因は、純粋に好景気により給与が増えることもそうですが、共働き世帯が増えたり、世帯主の平均年齢が上がることによる給与の上昇によっても収入は増えることになります。

注：家計調査については、平成11年7月以降、農林漁家世帯を調査対象に含むこととなり、農林漁家世帯を除く県庁所在地別の結果は平成19年（2007年）までとなっている。



出典：総務省統計局「家計調査（二人以上の世帯（勤労者世帯、非農林漁家世帯）」及び「消費者物価指数」より作成